

成果の説明書

(氏名) 小牧 幸代	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①調査・研究</p> <p>2015 年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の 1 年目であり、研究計画にしたがって、これまでに収集した世界各地のテーマパークにおける「イスラーム風アトラクション」「宗教ナショナリズム的アトラクション」「愛国アトラクション」等に関するデータの整理と分析に取り組むとともに、インターネットや文献資料を通じて最新の関連情報を収集した。また、現代インドの状況と比較可能な類似の事例を求めて、台湾のテーマパークにおける現地調査と資料収集を試みた。具体的には、高雄市に位置する台湾最大のテーマパーク「義大遊楽世界」と、同じく高雄市に位置するテーマパーク化した仏教施設「佛光山仏陀紀念館」、さらに台北市に位置する比較的小規模なアミューズメントパーク「台北市立遊園地」を訪問し、非日常性を演出または展示する各種アトラクションが、インドの場合と同様に、「国や宗教の歴史」「美食や消費の快楽」「伝統と未来のイメージ」を体験する文化装置となっている様子が確認できた。なお、高雄市では高雄モスク、台北市では台北モスク、台北文化モスクも訪問し、台湾におけるイスラームのあり方や南アジア系ムスリムの活動状況などの聞き取り調査もおこなった。</p> <p>次に、2014 年度末に着手したオスロでの現地調査を今年度も継続し（高崎経済大学特別研究助成課題研究「北欧のパキスタン人移民社会における〈名誉に基づく暴力〉の文化人類学的研究」、研究期間が 3 年目（＝最終年度）となった科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（B））「地中海から西・南アジア地域の人々に関わる「名誉に基づく暴力」の文化人類学的研究」（研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一）の研究会において、成果の中間報告をおこなった。</p> <p>同時進行中の 3 つめの研究テーマ「聖遺物信仰の 21 世紀的展開とバレーリー派の思想・運動」については、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「イスラームに基づく経済活動・行為」（代表：福島康博）の研究会において、これまでの調査研究の一つの区切りとなりうる成果発表をおこなった。この発表内容は、共同研究に基づく論文集の一部を構成するものとなり、近刊の予定である。</p> <p>②論文・著書・エッセイ</p> <ul style="list-style-type: none">◆「パキスタン、神学校で若者育成、越境するテロ集団連動」2015 年 4 月 29 日『中外日報』◆「インドのテーマパーク」2015 年 8 月『月刊みんぱく』8 月号 国立民族学博物館,p.7.	
<p>2 その他の事項</p> <p>2015 年度は観光政策学科学科長として、前期はホスピタリティ実習、後期はリレー講義「観光政策を学ぶ」を担当した。前者は、実習先企業、本学事務、非常勤講師の先生方、そして実習運営委員の学科教員との連携で学生の実習をサポートするものであり、通常の教育研究とは異なる貴重な経験となった。後者では、学科教員の講義をサポートしながら、学生時代に戻ったような感覚で、専門分野の異なる同僚の話に耳を傾けた。</p>	

いずれも、本学における教育研究のあり方を昨年までとは異なる立場や視点から見直すよい契機となった。同時に、自分自身の教育研究活動の今後を考えるうえで非常によい刺激となった。

3 次年度以降の計画・抱負

2016年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の2年目となる。また、科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（A））「〈ジェンダーに基づく暴力〉の文化人類学的研究」（研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一）ならびに科学研究費助成事業（科学研究費補助金（基盤研究（B））「地中海周辺域における聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学総合グローバル学部教授・赤堀雅幸）の研究期間の1年目でもある。したがって、インド、パキスタン、ノルウェーを中心に、ムスリム社会の宗教、娯楽、観光、芸術、女性、暴力に関する現地調査と文献研究を継続するとともに、収集蓄積されたデータの整理・分析をおこない、研究発表と論文執筆に取り組む。

その一方で、これまでと同様、研究成果を、つねに日本社会の類似の現象や出来事と関連づけて考察し、最新の世界情勢（特にイスラームを中心とした宗教と政治・経済の問題）や異文化理解・多文化主義のあり方の現状を、大学教育の現場で、専門知識をもたない学生にも分かりやすく解説する。地方公務員やインバウンド観光業界への就職を希望する学生にとっても有益な講義・演習となるよう工夫を凝らす（具体的には、写真や現物を見せたり触らせたり、エピソードを紹介したりすることで異文化を疑似体験させる）ことで、国際的な視野と知識を備えて地域社会で活躍する人材の育成に貢献したい。さらに、観光政策学科学科長の2年目となる2016年度は、前年度よりもスムーズに業務を遂行できるよう一層努力したい。